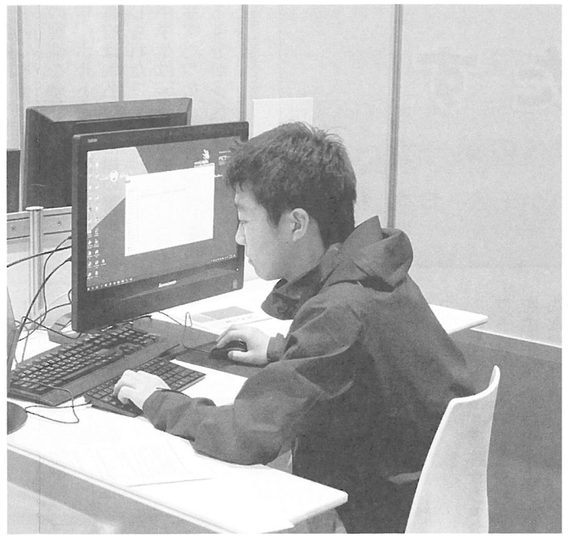
宮工高新聞

発行
〒980-0813
仙台市青葉区米ヶ袋三丁目2-1
宮城県工業高等学校
新聞部
TEL 022-221-5656
FAX 022-221-5660
http://www.miyagi-th.myswan.ne.jp/

## 技能五輪国際大会出場決定
# 現役高校生初の日本代表

【インタビュアー】新聞部　情報技術科二年　佐々木　崚
情報技術科二年　菅原　敏夫さん


▲UAEアブダビにて、アジア大会の様子

高校生初の日本代表として「業務用ITソフトウェア・ソリューションズ」職種で今年八月にロシアで開催される世界大会に出場する事が決まった情報技術科二年生の菅原　敏夫さん。普段同じ教室で学んでいる同級生が世界に挑むのだ。詳しいことを知りたい、応援したい、そのような気持ちでインタビューをさせていただいた。

菅原さんが所属しているのは情報研究部で、全国大会に出場し、優秀な成績を収めてきた先輩方を多く輩出している。しかし、活動は、ただ、技術の向上、独りよがりな技術だけをねらったものではない。人々のためになる技術を身につけるため、また、しっかりとした礼儀作法を常に心掛け、ランニングをして体力の向上も図るという心技体を鍛える活動になっている。

▲若年者ものづくり大会

「世界大会では何を競うのか」を疑問に思っていたため聞いてみると、「業務用ITソフトウェア・ソリューションズ」職種では、制限時間内に課題に沿って、ソフトウェアやデータベースの設計を行う。少ない制限時間で多くの課題をこなさなければいけないので、速さと正確さが求められる競技内容なのだそうだ。

現役高校生初の世界大会の日本代表として出場が決まった時は、「正直驚きました、未熟な自分でいいのかと不安な点はありますが、このような貴重な機会をいただいたので、最後までやり切りたいと思っています。」世界大会に対する意気込みを強く感じた。

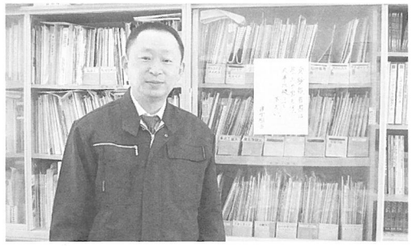
現在部活動では、昨年十一月に参加させていただいたアジア大会の課題を一から解く練習を行っており、できないところがないようにするため、多くの知識をつけると同時に、素早く課題をこなす練習をしているとのこと。八月の国際大会に向けてしっかりと準備をしているようだった。

菅原さんは、「昔からものを作ることが好きで、さらに、PCで遊んでいたのでPC関連の何かを作れればと思いプログラムを始めました。本格的に始めたのは高校に入から。将来はシステムエンアとして働ければと思う。言う。短期間でこのようなをつけることができたのはからPCに触れていたからなのだと強く感じた。

世界大会に向けての練習しい中、貴重な時間を頂いてなお話を聞く事が出来た。高校生でこのような快挙を遂げた菅原さんだが、今回を伺って、普段と変わらな虚な人柄と真面目さ、意志さを改めて感じた。自分もクラスなので、凄いと思う時に見習いたいと強く思っそして、宮工生として、同として菅原さんを応援した思った。

## 進路指導部長に聞く
# 調べる・考える・相談する

【インタビュアー】新聞部　インテリア科二年　遠藤　菜摘
進路指導部長　屋代　成夫　先生


▲進路指導部長　屋代成夫先生

高校二年生の私は、来年は自分の将来を決めなければならない。しかし、まだ自分が何をしたいのか、どのような職業が向いているのかがわからず迷っている。友人たちの中には明確な目標を持っている人もいて、焦りも感じている。このような時期に進路指導部長の屋代成夫先生にお話を伺う機会を作っていただいたので、この記事が同じような気持ちの方々の参考になればと思う。

今年も例年通り就職の割合が多く二百名だった。公務員試験を受ける生徒が増え、合格率も毎年高くなっているそうだ。進学の方は百十二名で、比率で考えると、就職と進学で2：1になっている。

進学では、推薦入試を受ける際に、高校時代にどのようなことに力を入れて頑張ったか、そして、大学ではそれをどう活かせるかを言えるようにすれば良いそうだ。また、大学は入学して終わりではないので、大学で学んだことで将来自分はどのような職業に就きたいか、そのために大学でこんなふうに頑張りたいと言えるようにすると良いらしい。大学進学で心配なことはやはり学費だ。学費は一般的に一年間で百万円から百二十万円かかるそうだが、奨学金制度もあり、三年生には学校内で説明会も開かれる。またオープンキャンパスでも情報が得られるそうだ。また、学費が心配だという場合は大学校という選択肢もあるそうだ。近いところだと、築館の職業能力開発大学校という所がある。そこでは一年間の学費は四十万くらいで、比較的安価だ。しかし難点は通学である。寮はあるが、県外の生徒が優先なので、県内出身者は入れない。そのため通学に時間がかかってしまう。しかし、そのような学校があるのは知らなかったので、他にも知らない人がいるのなら、この進路選択も参考にしてもらいたい。

就職では、九月十六日から就職試験が始まり、その後だいたい一週間くらいの間にほとんどの企業の試験がある。早い人だとから五日後くらいに結果がわかるので、就職希望者のほとんどは九月中には合否がわかるそうだ。

SPIは多くの企業で出題される。考える力が大事なので、二年生のうちから勉強しておくと良いらしい。またSPIは全体の八割を取れていると良いらしいが、そこを目指すのではなくそれ以上を目指して勉強する気持ちが大切だそうだ。SPIは一年生で行っただけなので、今からでも勉強していこうと思う。また、企業の初給料は平均十六万円ほどで、次の年からは所得税、市民税などの税金が引かれる。一年目は所得税のみだが二年目からは、多くの税を引かれ、一万円くらい引かれるそうだ。しかし、税金が引かれても、初給料よりは給料が高いようだ。

県外へ就職する時は企業によっては寮があるところや借り上げでアパートを用意してくれるところもあり、ひと月一万～一万五千円で住めるようだ。そのようなところがない企業でも相談をすると、住まいの面倒を見てくれるなど高校生には、親切にしてもらえるそうだ。企業にもよるが、寮には三十歳くらいまではいることができ、そのあとは家を建てる方もいるようだ。

最後に伺ったことは、やりたいことがまだ見つからない人は進路をどのように考えていけば良いのかということだ。解決策のひとつとして、先輩方や親に自分のことを聞いてみることを勧められた。人からみた自分の性格や長所など、新たな自分が発見できることもある。それから身近に居る人に沢山相談すること、大学選びで迷っている場合はオープンキャンパスにたくさん行くことや、就職では、学科長に話を聞いたりするのも良いとアドバイスをいただいた。

また、進路決定には成績も無視できない。今の時点での評定もこれからの努力で上げることができる。これからの期末試験が評定を決める大切なテストなので、このテストで評定値をどのくらい上げられるかが将来に繋がるそうだ。

最後にあと一年で出来ることは日本のニュースや社会に目を向け、新聞の社説文を読んで文章の力をつけることだと伺った。その文章力を大学の試験や面接に活かせたらいいと。

インタビューをさせていて気付いたことは、勉強活動も一年生の頃から頑張る方が良いということだ。SPIも進路関係も日々の積み重ねと分かった。高校生活はあっという間なので、一日一日を大にして、将来に向け、頑張っていきたいと思う。

### 最近3年間の求人状況と進路先内定先状況

| | | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 求人企業受付状況 | | 1710 | 1948 | 1940 | |
| 就職 | 県内企業 | 90 | 88 | 105 | 200 |
| | 県外企業 | 85 | 96 | 82 | |
| | 公務員 | 4 | 8 | 10 | |
| | 自営・縁故 | 3 | 2 | 3 | |
| 進学 | 大学等 | 91 | 91 | 76 | 112 |
| | 専門学校 | 36 | 26 | 26 | |
| | 受験中 | 0 | 3 | 10 | |
| その他(就職未定者含む) | | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 卒業者数 | | 309 | 314 | 314 | 313 |